

東郷元帥記念公園 第17回協議会 議事要旨

1. 開会(区)
2. 挨拶(区:環境まちづくり部部长)
3. 会長の挨拶
4. 議事
 - (1) 前回協議会の議事要旨について(第16回協議会)
 - (2) 協議会での検討内容
 - (3) 前回協議会までの樹木の取扱い
 - (4) 現況樹木の保全案
 - (5) 土壌対策と保全樹木の取扱い方針の検討
 - (6) 今後の検討方針
 - (7) 今後のスケジュールについて
配布資料
 - ① 資料-1 次第
 - ② 資料-2 前回議事要旨(第16回)
 - ③ 資料-3 東郷元帥記念公園改修工事検討協議会(第17回)
5. その他(区)
6. 閉会(区)

<意見交換(現況樹木の保全案について)>**学識者**

- ・状態の悪い木があるのは、土壌汚染対策の問題でも大変であり将来を意識することも大切である。
- ・木にとっても尊厳がある。あまり人間が手を加えることは良くない。

会長

- ・どの樹木が残せるのか、どのような残し方をするかの意思決定になる。
- ・バツがついているものについては、様々な理由で伐採となり、補植をしていく。
- ・今回の改修で伐採を行っていくことが後の世代に対しても責任を持つことになる。

学識者

- ・現地で確認した際、アオギリが伐採され萌芽していたが、185番で間違いはないか。アオギリは明治時代から尊王の意識のシンボルとして植えられていたところがある。あのアオギリは東郷平八郎のときから植えられていた可能性がある。保全するべきではないか。

事務局

- ・ご指摘の頂いたアオギリは185番ではなく、子供の池と砂場の中間くらいにある。この場所はトイレの予定地で空洞があったため、先行して伐採を行った。東郷邸は中段広場のあたりにあった。

委員

- ・上段部分は子供たちが遊んでいた空き地であり、その下側中段広場のあたりが東郷氏の屋敷であった。

傍聴者

- ・現況樹木の保全案について、了承しないとはっきり明言させていただく。
- ・樹木にも尊厳があるとお話だが、その樹木が死に至る直前まで残すべきである。

会長

- ・公園は公共物であるため、何かあったときに区が管理体制を問われる。
- ・一般の方や子供達が自由に入出入りする場所であり個人の所有物とは扱いが違うことをご理解頂きたい。
- ・現況樹木の保全案について、一部反対意見もあったが概ね賛同いただけた。

<意見交換(土壌対策と保全樹木の取扱い方針について)>

学識者

- ・碎石 50cm の盛土について、コンクリートで枠をつくると水がたまる可能性が懸念される。
- ・蛇籠のように鉄網のようなものの中に碎石を入れて置くような形であれば問題ない。
- ・1つの封込方法に絞るのではなく、場所に応じて封込方法を変える際にエアースコップや高圧の水を使った洗浄もまた選択肢の1つとして考えることができるのではないか。

学識者

- ・見栄えは別問題だが、蛇籠のような形にできると良い。大きめの石と砂利を併用した形で蛇籠を使用すると比較的透水性が良いものができる。
- ・透水性アスファルトによる封込については、見栄え等を考えた上で使用することに合意が得られれば必要などころに使用することは構わない。
- ・エアースコップについて、費用は何千万円とかかるため現実的ではない。その費用を住民の方が樹木を残すために自分たちで払うと言う場合は選ぶこともあるが、その場所に関係する人の判断である。
- ・一律に封込対策を行うのではなく、場所に応じて適宜考え選ぶのが良い。

会長

- ・ご意見をまとめると
- ①封込方法としては、碎石 50cm と透水性アスファルト 3cm を標準として、どうしてもという樹木があるのであれば、エアースコップもまた考え得る。
 - ②碎石 50cm に関しては、コンクリート壁が排水性を阻害するため、排水性がよくなる工夫をする必要がある。デザインの段階で検討して頂くと共に東京都と協議等して頂く。

傍聴者

- ・透水性アスファルトの場合1年に1回洗浄が必要とのことだが、洗浄は公園を封鎖して行うのか。

事務局

- ・アスファルトの表面に詰まった部分の洗浄のため、公園の封鎖は行わない。

学識者

- ・洗浄の機材は大きいものが必要になる。機材の大きさ等を考慮して設計することを留意してほしい。

傍聴者

- ・樹木の封込対策について、植木鉢の中に木が植わっているイメージで間違いないか。

事務局

- ・現在の土の高さに 50cm かさ上げして砕石をひき、その側面に 1 案としてコンクリートを巻くような形である。

学識者

- ・幹の直径の 3～5 倍というのは、通常移植をする際に根鉢を切る大きさである。根は樹冠の範囲以上に広がっているため、かなり根を切る形になる。しかし、その周りを良質土で置き換えることで新たに根が展開していくことになり、現状の樹勢が良く、根の手当てが良ければかなり成長が良くなる。

会長

- ・植木鉢の下が抜けていて下に根が広がる感じである。
- ・封込の方法について、合意を頂けた。

<意見交換(全体について)>

傍聴者

- ・東郷坂のケヤキが伐採となっているが、防音林として機能していたため、ご配慮いただきたい。
- ・外来種は使用しないとお話があったが、雰囲気や機能にあうものを植えていく方がいいのではないかと。

<全体のまとめ>

会長

- ・だいたいご意見を頂いたので、まとめに入りたい。
- ① 現況樹木の保全案については、一部反対意見もあったが概ね賛同いただけた。
 - ② 土壌対策と保全樹木の取扱い方針については、封込方法として砕石 50cm または透水性アスファルト 3 cm を標準に、どうしてもという樹木があるのであれば、エアースコップもまた考え得るということで、合意を頂けた。
 - ③ 砕石 50cm に関しては、コンクリート壁が排水性を阻害するため、排水性がよくなる工夫をする必要がある。デザインの段階で検討して頂くと共に東京都と協議等して頂く。
 - ④ 透水性アスファルトを使用して封じ込めた際、年に 1 回程度の洗浄は公園を封鎖せずに行う。
 - ⑤ 計画案について、「東郷坂沿いの樹木は防音林として機能していたため、配慮してほしい」と「雰囲気や機能に合うものを外来種等関係なく植える方がいいのではないかと」というご意見を頂いた。

<次回日程について>

事務局

- ・第 18 回協議会の開催日時は、3 月下旬から 4 月中旬を目標としている。

閉会

以上